

令和 2 年 6 月 2 日現在

機関番号：32103

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K12153

研究課題名(和文)医療を必要とする子どもの災害に備える力を高めるための支援ツール開発

研究課題名(英文)Nursing Support Guide for Enhancing Disaster Preparedness Abilities of Children in Need of Health Care

研究代表者

沼口 知恵子 (Numaguchi, Chieko)

常磐大学・看護学部・准教授

研究者番号：50381421

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、医療を必要とする子どもが、災害時に自らの健康の維持・管理をする力を高める看護支援ツールを開発することを目的として実施した。看護師が通常実施しているヘルスケアに加え、災害時の体調の維持・管理について子ども自身の力を高めるための支援ツールとして、支援内容、個人シート(支援者用)、個人シート(子ども用)、評価表、手引書を開発した。

医療を必要とする子どもに対し、3か月で3回の介入を実施し、3回の介入を終えた子どもにはそれぞれ災害に備えるための力の向上がみられた。また本ツールは、様々な状況の子どもの災害への備えの支援において、看護師の有効なガイドとなることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、医療を必要とする子どもに対して、看護師が通常実施しているヘルスケアに加え、災害時に体調の維持管理について子どもの力を高める目的で実施した。本研究で開発したツールは、今後起こる可能性の高い災害時に、医療を必要としながら生活する子どもたちのいのちを守ることに貢献するものである。またツールを用いた介入により、子どものライフステージの変化に対応し、子どもの自立支援にも貢献することが示唆された。

研究成果の概要(英文)：This study developed a support guide for nurses aiming to encourage children with medical needs to strengthen their skills to maintain and manage their own health in disaster situations. The results of an interview with children with medical needs, their nurses and their parents/guardians indicated that eight abilities are required for children to maintain and manage their own health during a disaster. We developed a “nursing support guide” for enhancing these abilities of children in need of health care in times of disaster. This support guide consists of four parts: Support Content, Guidelines, an Individual Support Sheet and Checklist. As a result of interventions for children in need of medical care, their ability to prepare for disasters was improved. It was also suggested that this tool could be an effective guide for nurses in helping children prepare for disasters in various situations.

研究分野：小児看護学

キーワード：医療を必要とする子ども 災害 備え 支援ツール

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究者らは、東日本大震災前より、医療を必要とする子どもの災害への備えについて取り組んできた。その中で、災害に関する備えについては、親と教員、親と医療者だけで物事が進みやすく、子ども自身は自分のことであるにも関わらずあまり知らないことが明らかとなった。例えば医療ケアの物品はどのように補充されているのか、防災リュックの中に何がはいっているのか知らないなどが確認された。このような状況において、障害のある子どもたちについては、「災害セルフケアパッケージ(肢体不自由児用)」を開発し、子ども自身の備えを促した。さらに、慢性疾患を持つ子どもたちが災害時に自分の健康の維持管理ができるよう備える必要があると考え、本研究に取り組んだ。

2. 研究の目的

本研究は、医療を必要とする子どもが、災害時に自らの健康の維持・管理をする力を高める看護支援ツールを開発することを目的として実施した。このツールは、看護師が通常実施しているヘルスケアに加え、災害時の体調の維持・管理について子ども自身の力を高めるための支援ツールである。

3. 研究の方法

医療を必要とする子どもが災害に備えるために必要な力を明らかにする調査

医療を必要とする子どもが利用する医療機関の看護師、医療施設を利用する子ども、保護者に半構成面接を実施。逐語録の分析から医療を必要とする子どもが災害に備えるために必要な力を抽出した。

看護支援ツールの開発

上記インタビューの結果を分析しながら、災害に備える力を高めるための支援内容、方法について検討し、ツールを開発した。さらに開発したツールの使用可能性を確認するために、医療を必要とする子どもを看護する看護師 4 名に半構成面接調査を実施。その結果からツールの追加修正を行った。

ツールを用いた介入調査

医療を必要とする子どもにツールを用いた介入調査を実施。評価表、看護師への面接調査からその効果を検証した。

4. 研究成果

医療を必要とする子どもたちと保護者、看護する看護師へのインタビュー結果から、「災害発生時に、子ども達自身が自らの健康を維持管理していくために必要な力」として、自分の疾病・障がいの状態がわかる、自分の治療がわかる、自分の体調がわかる、自分の体調を伝えることができる、体調を整えることができる(治療を含む)、周囲に助けを求めることができる、災害発生時に身を守ることができる、必要物品不足時の自己対応ができる、の 8 つが抽出された(図 1)。

これらの力を高めるための支援内容を、面接調査結果をもとに研究者で検討し、支援内容、個人シート、評価表、それらを使用するための手引書を開発した(図 2)。

介入研究の前に、医療を必要とする子どもを看護する看護師にツールの使用可能性について面接調査し、修正を加えた。

1. 自分の疾患・障がいの状態がわかる。
2. 自分の治療がわかる。
3. 自分の体調がわかる。
4. 自分の体調を伝えられる。
5. 体調を整える(治療を含む)。
6. 周囲に助けを求める。
7. 災害発生時に身を守ることができる。
8. 必要物品不足時の自己対応ができる。

図 1. 高めるべき 8 つの力



図 2. ツールの構成

表1. 支援内容 (抜粋)

No	災害に備え必要な力	子どもへの支援内容	家庭でも実践してもらおう支援内容
1	自分の疾患・障害の状態がわかる	<input type="checkbox"/> 子どもの体のどこがどのようになっているかを伝える。※	○ 説明された内容について、子どもの理解や思いを確認してもらう。
		<input type="checkbox"/> 子どもの疾患・障害に関連して、どのようなことが体に必要なのか子どもがわかるように伝える。	
		<input type="checkbox"/> 子どもが受けている治療について、子どもがわかるように伝える。	
2	自分の治療がわかる	<input type="checkbox"/> 子どもに処方された薬について説明し、一緒に確認する。	○ 説明された内容について、子どもの理解や思いを確認してもらう。
		<input type="checkbox"/> 災害発生時でも欠かしてはいけない薬は何かを一緒に確認する。	
		<input type="checkbox"/> 子どもにとって必要なケアについて伝える。	
		<input type="checkbox"/> 子どもにとって必要なケア物品、数量について説明し、一緒に確認する。	
		<input type="checkbox"/> 子どもの疾患・障害に関連した制限に関して、子ども、医師、保護者、とともに確認する。 例) 食事制限、行動制限など	

表2. 評価表 (抜粋)

No	災害に備え必要な力	子どもの目標	評価					メモ
1	自分の疾患・障害の状態がわかる	自分の体の中のどの部分が、どのような状態かわかる。	確認したことがない 1	できない 2	5割以上の支援でできる 3	5割未満の支援でできる 4	一人でできる 5	
		自分の体に何が必要なのかわかる。	確認したことがない 1	できない 2	5割以上の支援でできる 3	5割未満の支援でできる 4	一人でできる 5	
2	自分の治療がわかる	自分に処方されている薬がわかる。	確認したことがない 1	できない 2	5割以上の支援でできる 3	5割未満の支援でできる 4	一人でできる 5	
		処方されている薬の飲み方 (用い方) がわかる。	確認したことがない 1	できない 2	5割以上の支援でできる 3	5割未満の支援でできる 4	一人でできる 5	
		災害発生時でも欠かしてはいけない薬は何かわかる。	確認したことがない 1	できない 2	5割以上の支援でできる 3	5割未満の支援でできる 4	一人でできる 5	
		自分に必要なケアや処置がわかる。	確認したことがない 1	できない 2	5割以上の支援でできる 3	5割未満の支援でできる 4	一人でできる 5	
		自分に必要なケア物品、数量がわかる。	確認したことがない 1	できない 2	5割以上の支援でできる 3	5割未満の支援でできる 4	一人でできる 5	
		疾患・障害に関連した、日常生活上の制限 (食事制限、行動制限など) がわかる。	確認したことがない 1	できない 2	5割以上の支援でできる 3	5割未満の支援でできる 4	一人でできる 5	

修正後のツールを用いて、医療を必要とする子どもへの介入を実施した。3か月間に3回のツールを用いた支援を実施した。最後まで介入を終えた3名は、災害に備える力が介入前よりも向上したことが確認された。

また、介入後の看護師への面接調査から、自立度の高い子どもであっても評価表を用いた確認により新たな課題に気づくことができ、支援につなげることができた、子ども自身がより主体的に自分の健康管理にかかわるようになったなどの効果が明らかとなった。さらに、看護師が様々な疾患の子どもへの災害の備えを促す際のガイドとして有用であることも示された。課題としては、介入時間の確保や家族の理解を得ることの難しさが示された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 沼口知恵子、加藤令子	4. 巻 42 (12)
2. 論文標題 慢性疾患等の医療を必要とする子どもが災害に備えるための看護支援ツールの開発	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 小児看護	6. 最初と最後の頁 1509-1512
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件／うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Numaguchi, C., Kato, R., Komuro, K., Hara, A.
2. 発表標題 Nursing Support Guide for Enhancing Disaster Preparedness Abilities of Children in Need of Health Care: A revision based on nurses' opinions.
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, (Osaka, Japan) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 C Numaguchi, R Kato, K Komuro, A Hara.
2. 発表標題 Nursing Support Guide for Enhancing Disaster Preparedness Abilities of Children in Need of Health Care
3. 学会等名 World Society of Dsaster Nursing (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 沼口知恵子、加藤令子、小室佳文、原朱美
2. 発表標題 子ども自身が災害に備える力を高めることへの看護師の認識と取り組み
3. 学会等名 第37回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	加藤 令子 (Kato Reiko) (70404902)	関西医科大学・看護学部・教授 (34417)	
研究分担者	小室 佳文 (Komuro Kafumi) (20233067)	東京医科大学・医学部・教授 (32645)	
研究協力者	原 朱美 (Hara Akemi)		